



2面・3面 巡回公演だより／園からの声／制作だより  
4面 新作紹介・かさじぞう／演育ワークショップ／事務局だより ほか

<http://www.suginoko.org/>

E-mail: [support@suginoko.org](mailto:support@suginoko.org)



「青い目の人形100年・平和サミット (仮称)」打ち合わせに於いて (令和7年1月28日)

# 戦後八十年を迎える年 私たちに何ができるのか

理事長 大場 隆志

昭和二十年（一九四五年）の第二次世界大戦により、日本は都市という都市が空爆を受け、全土が焦土と化しました。その敗戦から僅か十九年後の昭和三十九年には、新幹線を走らせ、

高速道路を建設し、東京オリンピックを開催しました。この年の八月一日には、「劇団すぎのこ」も創立されました。

このことについて、元首相の吉田茂氏は、部下にこんな質問をしたとのこと。 「日本は何の資源もない国だ。その国がたつた十九年でこれだけの復興を遂げたのはなぜかわかるか」と。

皆が何も答えられないしていると元総理はこう語ったといひます。 「日本は何の資源も無いが、たった一つだけ資源があった。それは日本人の勤勉性という資源だ」と。

それを聞いた皆は、膝を打って納得したとのこと。 上智大学名誉教授の渡部昇一先生もこんな言葉を残しています。

「どんな困難が迫ってきたとしても、日本人のアイデンティティが確立されていれば、怖いものなど何も無い。アイデンティティを無くすことが最大の困難なのである」と。

日本人のアイデンティティとは、日本人の勤勉性、誠実、忠誠心ということであり、人としての人格、在り方を失わない限り、日本はどんな困難も乗り越えていけるということだと思います。 組織も同じであり、「すぎのこ

芸術文化振興会」としての在り方を失ってはいけないということでもあります。

三〇年前、日本はジャパンアズナンバーワンと称えられた時代がありました。その後、バブル景気に浮かれてしまい、急速に失速、劣等化して、今では、昨年の統計によると一人当たりのGDPは世界三十九位で、G7の中で最下位となり、世界の競争力ランキングでも過去最低の三十八位という状態になってしまいました。

日本を蘇らせるための要となるのは、やはり教育ということになると思います。

知識や技能を教える教育も大事ですが、それ以上に大事なのは人間の心を高め、人間力を養う教育ということになりますので、幼少期から学べる「演育」を全国規模で実施できるように進めていくことが、私たちの使命であると考えます。

さて、「青い目の人形」を、ご存知でしょうか。 約一〇〇年前の話です。平和を願ひ、心と心をつなぐ人形がありました。

その頃、世界には戦争の危機が高まり、日本とアメリカも敵の国となり、戦争が始まるかもしれないと心配した。そのようなときにアメリカから日本の子どもたちに、たくさん「青い目の人形」が贈られたのです。その人形は、日本各地の小学校や幼稚園に届けられました。

子どもたちは大喜びで「青い目の人形」と呼んで、仲良しのお友達になりなりました。敵国として戦争になるかもしれないアメリカに

も、「青い目の人形」のような子どもたちが大勢いるのだと思ひました。「青い目の人形」は、知らない国の子どもたちとの心と心をつなぐ平和の使節でした。

しかしながら、国と国は戦争となり、敵の国から贈られた「青い目の人形」は捨てさせられました。子どもたちにとって、よく分らない悲しい出来事でした。歌にもなつて、子どもたちに愛された「青い目の人形」は、日本の世の中から消されてしまいました。

やがて戦争が終わり、年月が経ち、「青い目の人形」の話はみんなが忘れたようですが、人形が贈られてから一〇〇年となる今、「青い目の人形」はいくつもの大事に隠され守られて生き残っていることがわかりました。全部が捨てられたり燃やされたりはしていません。ずっと隠れて、戦争の間も密かに守られていたのです。

一九二七年に、日本とアメリカの子どもたちの間で始まった「青い目の人形」交流は、国境を越えた友情と平和の象徴として、今なお多くの人々の心に刻まれています。

この歴史的交流が二年後に一〇〇年を迎えるにあたり、私たち公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会としても、人形×世界平和ということ、日本とアメリカが平和と友情のために人形を送ることを考えた素晴らしさを再認識し、これからの世界平和と友情を誓う機会となるイベント開催を目指してまいります。

世界の戦争が終わりなく続き、多くの子どもたちの未来が奪われていく、今だからこそ。



# 巡回公演だより

## たのきゅうのうわばみたいじ 班

日本中が寒波に見舞われ、冷たい風と雪にさらされた長い冬。暦の上ではようやく春を迎え、少し伸びた夕暮れの時間に季節の移り変わりを感じています。

「たのきゅうのうわばみたいじ」は、2024年度をもって千秋楽となりました。全国の子どもたちにも無事お届けすることができ、劇団員一同ほっとしております。

年間通してこの作品を演じる私たちですが、たのきゅうは何十回、何百回と演じていても、人形の視線一つ、うなづき一つで劇の表情が変わってしまふなんとも奥深い作品でした。芝居への探究心が刺激される日々を過ごせたこと、このような役者冥利につきる作品に携わ

れたことを本当にありがたく思います。こんな気持ちをお話は一



終わりますが、これからもたのきゅう一座は…いえいえ、私たち劇団すぎのこは全国の隅から隅まで物語を届ける旅を続けて参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 金のおの銀のおの 班

(吉田 薫)

新年度になりました。子ども達にとつてひとつの年を過ごしたことは計り知れない成長があったのでしよう。私自身、子ども達に人形劇を届ける立場でありながら、それ以上の何かを与えられていると感じます。ほんのささやかな出来事ですが、

ある日、上演後人形で見送っていた時、一人の女の子が急にぎゅうっと人形にハグしてくれました。「おもしろかったよ」の笑顔とはちょっと違うような、その子の今の、その時の、生きていく何かを感じます。ひよっとして仲のよいお友達とケンカしちゃったのかな。今朝お母さんに叱られたのかな。誰にも言えず悩むことってあるよね。それは大人になっても変わらないこと。

その子の気持ち、心情はわかるはずもないが、戸惑いながらの大きな可能性の夢と希望、子どもの空想や想像に歩みを止めずついて行こう。子どもの泣き笑いが道しるべです。

以来、観劇のお礼の色紙には決まって、「すてきな出逢い、ありがとう」と書きます。(榎本 均)

## 園からの声

### 金のおの銀のおの

■入間川幼稚園 (埼玉県狭山市)

いつものホールが、中に入った時から「森みたい！」と、どんなお話が始まるのかワクワクしている様子でした。人形の動きがとてもしアルで、声もそれぞれの人形に合わせて、とても聞きやすかったです。最後に写真を撮らせていただいたり、人形を見せていただいたりして楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

■二日市カトリック幼稚園 (福岡県太宰府市)

目の前で見える人形劇は、テレビと違って臨場感があり、大人も子どもも自然と引き込まれました。「正直なのは素晴らしい」という教訓はもちろん、笑えるポイントもありとても楽しめました。最後に人形と触れ合えたことも子ども達のいい思い出となったと思います。ありがとうございました。

### たのきゅうのうわばみたいじ

■興道こども園どんぐり (山形県米沢市)

子どもたちが人形に親しめるよう工夫して頂いたり、人形劇を安全に楽しく鑑賞できるように子どもたちにも伝えてくださったりと、

こまやかな所までいいねいな対応をして下さり、とても良かったです。0歳児から年長児まで楽しむことができました。ありがとうございました。

■浮孔保育所 (奈良県大和高田市)

「こねこ毛糸玉」が始まると、子どもたちは、ねこの動きに引きつけられ、じっと見ていました。「たのきゅうのうわばみたいじ」にかわると、話し口調も面白おかしく、身乗り出して楽しんでいました。家庭でも劇の事をたくさん話していたと、保護者さんが喜んでいました。ありがとうございました。

### マリーンとまほうのふた

■可部ふたば幼稚園 (広島県広島市)

今回はスクリーンを使った新しいもので、絵に描いたものが実物になっていく場面が大人からしても楽しかったので、子どもたちはより一層楽しんでいました。BGMが流れると、子どもたちか

ら自然と手拍子が起こり、物語の世界に入り込んでいく様子が伺えました。場面展開も工夫されていて、観ていてワクワクしました。楽しい時間をありがとうございました。

■高松幼稚園 (香川県高松市)

背景にスクリーンが組み込まれており、とても新鮮でわかりやすかったです。人形の動きはもちろんのこと、声での表現力もとても豊かで、どんどんとお話の世界観に引き込まれていきました。中国の歌や言葉など異文化に触れる機会にもなり、とてもいい体験となりました。

### すいてん・ねずみの嫁入り

■みのり保育園 (長野県上田市)

一家に帰ってからも、1つ目のお話がとても楽しかったです。



▲わかば保育園 (高知県土佐市) より



▲慶櫻南台保育園 (埼玉県川越市) より

▼みゆき保育園・認定こども園いぶき幼稚園・住吉保育園 (愛媛県宇和島市) より



▼比津ヶ丘保育園 (島根県松江市) より





### マーリヤンとまほうのふで 班



首都圏・関西・九州を巡回公演しました。この作品は、子どもたちが参加して進めていきます。ごんべえさんの歌の中に、鴨が「ぐえ〜」と鳴くところがあり、そこを、鴨になった子どもたちの手でくちばしをつくってもらい元氣よく鳴いてもらいます。楽しいだけでなく、この作品のテーマである「生き物の命を粗末にはしてはいけません。」を伝えていきます。

この作品の製作は、1977年。今から48年も前になります。約半世紀も上演をしていることになりました。私自身も、ごんべえさんを40年余り演じていますが、作品の持つ力に敬服すると同時に、この作品に出合えたことに感謝しています。

「どうしても聞きたいことがある」と言う子がいた。聞いてみたら、「龍はどうやって飛んでいたの？」だった。答えはいたって簡単。棒遣いで、下から操っていた。しかも出遣いだから、堂々と見せていた。それなのに、その子の目には遣い手の姿は目に入らず、龍だけが動いていたのか？

遂に僕の人形操作も、そこまでの名人芸の域に達した。なんて言いたいところだが、そうじゃない。その子が物語に入りこんだからこそその現象である。

### もぐもぐ劇場 班

もぐもぐ劇場は、昨年度は「かもとりごんべえ」の作品を中心に、



1977年。今から48年も前になります。約半世紀も上演をしていることになりました。私自身も、ごんべえさんを40年余り演じていますが、作品の持つ力に敬服すると同時に、この作品に出合えたことに感謝しています。

### ねずみの嫁入り 班

※脚本・岡崎柁男／演出・人形美術・小澤 明／音楽・横山太郎 (下村 あきら)



「優しさ」と「思いやり」は似た言葉ですが、微妙に意味が異なります。「優しさ」は、人の心を和らげたり、安心させたりするあたたかい態度や行動を指します。たとえば、困っている人にそっと寄り添ったり、相手を傷つけない言葉を選んだりすることが「優しさ」。「思いやり」は、相手の立場に立って考え、その人の気持ちを尊重しながら行動すること。つまり、「優しさ」は「あたたかい心や態度」、「思いやり」は「相手の気持ちを察して行動すること」と言えます。どちらも人間関係を豊かにする大切な要素だと思います。昨年、とある公演先の園さんに「人権に配慮した保育」という掲示が貼ってありました。「☆子どもを呼ぶときは「○○くん」「○○ちゃん」と名前を呼んでいます

か。☆挨拶は笑顔で相手の目を見て挨拶をしていますか。乳児を受け入れる時には、目の高さになるように体をかがめていますか。☆1人1人を大切にし、相手を思いやることを知らせていますか。と書かれてあり、とても感銘を受けました。

### 2025年度 上演予定

時期	5月～8月	9～12月	1月～3月
地域			
北海道	マーリヤンとまほうのふで		
東北		金のおの銀のおの	
関東	金のおの銀のおの		マーリヤンとまほうのふで
新潟・北陸			
東海・近畿			金のおの銀のおの
中国		かさじぞう	
四国			かさじぞう
九州	かさじぞう	マーリヤンとまほうのふで	金のおの銀のおの マーリヤンとまほうのふで
沖縄		金のおの銀のおの	

《その他》  
・もぐもぐ劇場 ・ねずみの嫁入り  
・かもとりごんべえ  
関東を中心に上記の作品も上演しております。  
お気軽にお問合せください。

4月となりました。新学期です。ご入園・ご入学・ご進級のみならず、心よりお祝い申し上げます。あたたかい春風にも似たお姿が想

### 制作

してもらうこと。稽古にはげみ、前に進んで行きたいと思っています。(小杉 正繁)

1学期の上演地域を申し上げますと「金のおの銀のおの」班は新潟・北陸、「マーリヤンとまほうのふで」班は北海道、「かさじぞう」班は九州の予定です。この中でも殊に九州は毎年ご用命が多く、2学期と3学期にも各班が巡回いたします。

(坂本 憲治)

す」と連絡帳に記入してきてくれました。声を上げて笑い楽しみながら見ることができました。かくれんぼにはまっています。お話の中に「あいさつ」の大切さが入っていて、次の日、大きな声であいさつしてくる子が多かったです。

時間でした。また劇の間に体を動かす体操を行い、子どもたちが退屈にならないような工夫をしており、図書館職員も大変勉強になり、改めて感謝する次第です。また機会がありましたら、ぜひ南島原市でご公演いただけますよう、よろしくお願い致します。最後になりますが、貴法人の皆様のお力添えが、貴法人の活躍を心よりお祈り申し上げます。



▲慶徳南台保育園(埼玉県川越市)より

### もぐもぐ劇場

令和7年度の演目は「金のおの銀のおの」「マーリヤンとまほうのふで」、そして新作「かさじぞう」です。巡回の開始は5月。黄金週間が終わった後からです。新年度の上演に向け、劇団員たちも張り切って稽古に励んでいるところ。道塚幼稚園(東京都大田区) ありがとうございます。とても盛り上がりだしましたね。どんどん引き込まれていくのがとてもよくわかりました。子どもたちも笑顔で、すごく楽しかったと言っていましたし、「日本のお話、面白いね」と話していました。普段大がかりなセットで観ることがないのでとても楽しかったです。



▲篠井保育園(栃木県宇都宮市)より



### ●新作紹介● かさじぞう

脚本・演出／榎本 均  
人形・舞台美術／吉川 潔 (アトリエ・パネンカ)  
作曲／葛西千里

すぎのこ巡回公演2025年度の新作は、日本の昔話「かさじぞう」です。影絵紙芝居DVD制作、絵話など、「かさじぞう」を子どもたちに伝えてきたすぎのこが人形劇でお届けします。

現代の子どもたちは、SNS等の普及により、即座に目を引く、表層的で強く短い言葉による表現に常に晒されています。しかし言葉に現れるものは、心の奥底にある様々な思いのほんの一端にすぎません。『かさじぞう』では、登場人物の「行い」の姿に焦点を当て、言葉の奥にある思いの存在を子どもたちに示します。お地蔵様の頭に積もった雪をはらい、「つめたかろう」と笠をかぶせ、手を合わせて、拜む。この「拜む」という行いには、相手を思いやる心、感謝の心など、豊かな日本の心が詰まっています。

今回、脚本・演出は、すぎのこで40数年現場一筋で巡回公演をしている榎本均がその経験をふまえ担当します。台詞で説明するのではなく、子どもの感性に訴える作品に…と準備を進めています。ご期待ください！



## 講習会報告 演育ワークショップ

2024年度最後の演育ワークショップを、1月23日埼玉県飯能市にある、さゆり幼稚園において実施いたしました。今回は、おはなし演育の中から「浦島太郎」のお話を題材に、それぞれの登場人物の気持ちになって考えてみることを中心に行いました。

浦島太郎が「そろそろ家に帰らなくては」という台詞に対して、「なぜそう思ったのかと聞くと、「こ馳走食べて、お腹いっぱいになったから」「おっ母が、心配になったから」など、子どもたちは、一人ひとりが考え、みんなの前で発表してくれました。

「おはなし演育」は、ストーリーを伝えるだけでなく、物語を手段として活用し、「きいて」「みて」「よんで」「かんがえる」という行為を通して、子どもたちの気づきを得ることを目的としています。また、「演劇のメソッドを取り入れた演育ワークショップを取り入れたことにより、クリスマス会（発表会）での子どもたちの表現が豊かになりました」という感想も、先生から頂きました。

対象年齢、時間、回数などにより、内容は変わりますが、お問い合わせ下さい。

(下村 明)

## 事務局 だより



当財団には、群馬県に日本小型自動車振興会（現公益財団法人JKA）の補助により建設された「すぎのこ山荘」と日本宝くじ協会の助成により整備された「わんぱく村」からなる「すぎのこ婦恋研修センター」があります。

この施設は緑豊かな自然に恵まれ、大変静かな環境に立地し、音楽や芸術等の芸術文化活動や公益活動にお貸ししています。合宿や研修等で会場をお探しの方は、ぜひご検討ください。（利用目的は原則自由ですが、冠婚葬祭やそれに類する事、営利目的の活動には使用できません）

近くには、海拔1240m、周囲2kmに及ぶバラキ湖をはじめ、近隣に日帰り温泉「湖畔の湯」や

バラキ高原婦恋スキー場等が点在し、年間を通じてレジャーや野外活動の拠点としてご利用いただける他、敷地内にはバーベキューが楽しめる集会所が整備され、日本キャンプ協会の優良キャンプ場として認定されています。婦恋研修センターに関するお問い合わせ [Email:support@suginoko.org](mailto:Email:support@suginoko.org) または03-3398412396 (事務局)



婦恋研修センター

# 賛助会員を募集しています！

賛助会は、すぎのこの理念・目的に賛同する個人や団体の方々に、当財団の活動を側面から支援していただくものです。

1. 賛助会に関する基本事項に関しては、定款第45条によるものとする。
2. 賛助会は、当法人の目的に賛同し、事業や業務を支援する個人・団体賛助会員からなりその内容は次のとおりとする。
  - (1) 賛助会費を納める「会費制賛助会員」
 

個人	年額	3,000円 以上
団体	年額	10,000円 以上
  - (2) 知識、技能、労力を提供する「技能制賛助会員」
 

個人	年間	3日間以上
団体	年間	5日間以上
3. 賛助会員になろうとする者は、申し込み用紙に必要事項記入のうえ、会費（技能提供予定書）を添えて当法人事務局に提出し理事長の承認を受けなければならぬ。
4. 納入された会費は管理運営費並びに賛助会運営費に使用する。
5. 賛助会員が退会しようとする場合、所定の退会届に必要事項記入のうえ、当法人事務局に届け出る。
6. 会費制賛助会員が二年以上会費を滞納した場合、技能制賛助会員が二年以上知識、技能、労力の提供がなかった場合は、自然退会として扱う。
7. 理事長は、賛助会員の当法人への理解や支援、賛助会員同志の意志の疎通や親睦を図るため、会員の中から若干名の世話人を選び、世話人の中から代表世話人を選任し世話人会を設置する事が出来る。
8. 世話人会が設置された場合、世話人は代表世話人の下に、前4項の目的を達成するための事業や業務を、理事長の指導のもとに企画し実施する事が出来る。
9. 賛助会員は、この法人が刊行する図書及出版物等の優先的配布、その他この法人の行う行事に関して優先的な取り扱いを受ける事が出来る。
10. 賛助会員が、会員として相応しくない行為があると認められる時は、世話人会及び理事会の、各々3分の2以上の議決により除名する事が出来る。
11. 前項の理由により除名する場合、理事長は、予め本人からの文書または口頭での意思表示を求め、理事会において最終判断をする。
12. 納入された会費及び提供された技能はいかなる理由があろうとも返還はしない。
13. この賛助会規程を改廃しようとする場合、理事会の議決を経なければならない。

### 活動記録(令和7年1月~3月)

- 1/7 第三学期全国巡回公演開始
- 1/14 演育ワークショップを実施  
於・さゆり幼稚園(埼玉県飯能市)
- 1/23 演育ワークショップを実施  
於・さゆり幼稚園(埼玉県飯能市)
- 2/4 第27回定例理事会  
於・当公益財団事務所
- 2/27 第10回臨時評議員会  
於・当公益財団事務所
- 3/22 第三学期全国巡回公演終了  
令和7年度事業計画書並びに収支予算書を内閣府に提出
- 3/31